

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用		備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置		
1	女 60代	大動脈弁狭窄症 による上行大動 脈置換術,大動 脈弁置換術 (高血圧)	10000単位 1日間  (3日間投 与なし)  3000単位 4日間  10000単位 1日間	<b>ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)</b> 本剤投与歴:なし 投与日 軽い胸痛があり,本剤10000単位を投与。 中止4日後 大動脈弁狭窄症について大動脈の石灰化が強 (再投与開始日) く,上行大動脈置換術,大動脈弁置換術を施 行。本剤再投与開始。 術中の心筋梗塞に対し冠動脈バイパスも追加。 人工心肺中に人工肺に血栓が付着し,回路内 圧が上昇するエピソードがあった。人工心肺時 間長く,止血にも難渋しMAP(人赤血球濃厚液) 26単位,FFP(新鮮凍結人血漿)40単位,PC(人 血小板濃厚液)30単位投与し,ICUに入室した。 ICU入室後より,血小板数 $1.3 \times 10^4/\text{mm}^3$ と低く, $0.8 \times 10^4/\text{mm}^3$ まで低下したため人血小板濃厚 液を投与し, $11.0 \times 10^4/\text{mm}^3$ まで回復した。  再投与3日目 血小板数 $1.1 \times 10^4/\text{mm}^3$ と低下したため,人血小 板濃厚液20単位を投与。  再投与4日目 血行動態安定したため鎮静剤を中止したところ, 右半身不随麻痺を認めた。  再投与5日目 人工弁術後のため本剤10000単位を投与する (再投与中止日) も,血小板減少が継続しているため低分子ヘパ リンへ変更。  再投与中止1日後 薬剤性血小板減少症を除外すべく,セファゾリン ナトリウム,ファモチジン中止。  再投与中止2日後 頭部CTにて多発性脳梗塞を認め,血小板数 $3.1$ $\times 10^4/\text{mm}^3$ であることからHITを疑いアルガトロ バンへ変更。  再投与中止3日後 血小板数 $5.9 \times 10^4/\text{mm}^3$ 。 再投与中止4日後 血小板数 $10.4 \times 10^4/\text{mm}^3$ と軽快した。		企業報告

#### 臨床検査値

	投与 2日前	中止4日後 (再投与開始日)			再投与 3日目	再投与5日目 (再投与中止日)	再投与中止 2日後	再投与中止 3日後	再投与中止 4日後
血小板数( $\times$ $10^4/\text{mm}^3$ )	16.4	1.3	0.8	11.0	1.1	6.4	3.1	5.9	10.4

併用薬:塩酸ドパミン,塩酸ドブタミン,ミルリノン,塩酸ニカルジピン,インスリン,ファモチジン,セファゾリンナトリウム

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
2	女 70代	慢性腎不全による血液透析 (心不全, 高血圧, 糖尿病)	8000単位 (週3回) 32日間	<b>ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)</b> 本剤投与歴: 不明 投与開始日 心不全及び腎不全にて入院。腎不全に対してシャント造設し, 週3回の血液透析を導入した。その後徐々に下表のとおり血小板数減少を認めた。 投与32日目 透析開始直後より血圧低下, 胸痛が発現し, 急性心筋梗塞を発症した。 (投与中止日) HITを疑い, 直ちに本剤を中止した。アルガトロバン9.9mL/時に変更し, 急性心筋梗塞は保存的に加療した。血液検査にて抗ヘパリン - 血小板第4因子複合体抗体(HIT抗体)陽性であった。 中止1日後 中止翌日より透析時はアルガトロバン4mL/時に変更した。心筋梗塞慢性期にアルガトロバン使用下施行した冠動脈造影の結果, 左前下行枝及び左回旋枝の2枝病変を認め, PIC(経皮的冠動脈形成術)を行うこととした。PIC開始時にアルガトロバンをボース投与後, 持続静注しながらACT(活性化凝固時間)を300秒程度に保つことができた。	企業報告

#### 臨床検査値

	投与1日前	投与7日目	投与30日目	投与32日目 (投与中止日)	中止約1ヵ月後
血小板数 (× 10 <sup>4</sup> /mm <sup>3</sup> )	17.7	14.7	16.3	10.0	18.2

併用薬: メシル酸ドキサゾシン, 塩酸エホニジピン, ワルファリンカリウム, 硫酸オルシブレナリン, レボチロキシシンナトリウム, ウルソデオキシコール酸, ランソプラゾール, テプレノン

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用			備考	
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置				
3	女 70代	肺血栓症(ロック) (なし)	40単位 13日間	<b>ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)</b> 交通事故により入院。 投与開始日 ヘパリンナトリウム(静脈内留置ルート内の血液凝固の防止の効能を有する製剤)投与開始。 投与9日目 肺血栓塞栓症発症し、ヘパリンナトリウム(10000単位/日)点滴静注開始。 投与10日目 HIT発現。 投与13日目 本剤及びヘパリンナトリウム中止。 (投与中止日)抗HIT抗体測定 陽性。 中止3.5ヵ月後 軽快。			企業報告	
<b>臨床検査値</b>								
			投与開始日	投与2日目	投与9日目	投与10日目	中止5日後	中止21日後
	血小板数(×10 <sup>4</sup> /mm <sup>3</sup> )		19.3	5.1	10.1	3.4	13.4	19.7
	D-ダイマー(μg/mL)		241.75	93.60	114.00	98.20	57.10	6.07
併用薬:なし								